

利用者の意向や特性を尊重し、人と関わりながら地域で自立した生活を営めるよう、多様な障がい福祉サービスを提供する

NPO法人と社会福祉法人二つの法人を持つゆうき福祉会。野菜の袋詰めやクリーニング作業等の事業を通じて、心身に障がいがある利用者に就労の場を提供し、自立や就労を支援する福祉サービスを行うほか、関連法人も併せ持つ。利用者の学びの特性を尊重しながら、一人ひとりが生き生きと社会参加できる取り組みを続けている。



理事長 豊田 淳一氏

- 代表者 理事長 豊田 淳一
- 設立 【NPO法人ゆうき福祉会】平成14年4月、【社会福祉法人ゆうき福祉会】平成24年4月
- 従業員数 104名(ゆうき福祉会)
- 事業内容 【NPO法人ゆうき福祉会】就労移行支援、就労継続支援B型、共同生活援助、相談支援事業
【(福)ゆうき福祉会】就労継続支援B型、生活介護、共同生活援助、短期入所、生活サポート
【NPO法人あおい糸】居宅・生活介護、共同生活援助、小規模保育所、訪問看護ステーション他
【(株)プロスパー】製本関連事業、【(一社)シーピーシー】キャンプ場運営
- 所在地 【NPO法人ゆうき福祉会】〒359-0011 埼玉県所沢市南永井867-1 所沢総合食品地方卸売市場内
TEL 04-2945-1038 FAX 04-2945-1049
【(福)ゆうき福祉会】〒359-0014 埼玉県所沢市亀ヶ谷270-1
TEL 04-2941-3179 FAX 04-2941-3189
- U R L <http://sudachisagyouyouyo.web.fc2.com>

埼玉県を中心に障がい福祉サービス事業を行うゆうき福祉会は、NPO法人ゆうき福祉会と社会福祉法人ゆうき福祉会の二つの法人を持つ。同会(ゆうき福祉会)は知的障がいがある人を中心に、就労に必要な知識や能力向上のためのトレーニングを行いながら働く場を提供する「就労継続支援B型」や、就労訓練を行いながら一般企業への就職を目指す「就労移行支援」、さらにグループホームで援助を受けながら共同生活を送る「指定共同生活援助(介護サービス包括型)」などのサービスを提供する。

「利用者の方は18歳から65歳までの、介護保険に移行する前の年齢の方たちが中心で、全事業所で170名ほど在籍しています。作業所を見学に来られた方は『利用者の皆さん明るく、楽しそうに仕事をされていますね』とおっしゃいます。実際に生き生きと仕事をされていますね」(豊田淳一理事長)

「すだち作業所」「すだち三芳作業所」「すだち亀ヶ谷作業所」「temicafeテミカフェ」「Work&life Sta.(ワーク&ライフステーション)志木すだち」等の事業所を運営する同会。野菜の袋詰めや青果市場内でのカレー店運営、リネンクリーニング、パン店・カフェ運

営等を行うとともにグループホーム「こうづ」「すだち」を運営し、事業を展開。障がい者の就労支援活動を行い、社会参加をサポートしている。

→ 市場内に作業所をつくり、事業を開始

福祉系の大学を卒業後、福祉施設で働いていた豊田理事長。長年勤めていた職場を辞めた後、青果市場に勤める知り合いから、「うちの市場内に福祉作業所をつくって、野菜の袋詰め等の仕事を請け負ったらどうだろう?」と声をかけられる。

「それまで障がいがあっても誰かが支援すれば、一般就労や1人で生活ができるような人を見てきました。そこで、福祉事業所を立ち上げて所沢市に定員10名で申請を出したら、すぐに9名の利用者の方が来てくれました。それで、産地から箱で届く野菜を指定の数だけビニール袋に詰め、シールを貼るという事業をスタートさせました。最初のメンバーのうち5名は、今でもうちで頑張ってくれています」

こうして当初任意団体としてスタートし、平成14(2002)年NPO法人となる。当時、ゆうき福祉会のよ

うに、就職者を輩出しようという民間の福祉事業所は、埼玉県内に数カ所しかなかったという。

やがて施行された障害者総合支援法により社会に活躍の場を求める利用者が増加すると、企業から依頼される仕事も増えていき、請け負う事業も多岐にわたるものとなっていった。そして平成24年に社会福祉法人を設立し、二つの法人を持ちながら就労支援や就労継続支援、グループホームの運営等サービスの幅を広げ、その後関連法人も立ち上げていった。

➔ 利用者各自の学びのスタイルを尊重

原則的にゆうき福祉会の利用者は、特別支援学校の生徒が見学や実習を通じて卒業後サービスを利用したり、市区町村の福祉課から紹介されてサービスを受けることになる。まず、利用者の障がいの状況や就労能力等を評価するアセスメントを行い、最も適した作業所をマッチングする。職員は一人ひとりの強みや弱みを見極め、強みを伸ばし、弱みを克服できるよう支援を行い、利用者は仕事をしながら労働習慣を身につけていく。

同会では企業から、障がいのある人たちができる一部の作業だけを引き受けるのではなく、通常のビジネス同様に丸ごと請け負っている。当然、納期や質も厳しく、利用者は一般採用したパート作業員と一緒に仕事を行う。福祉知識のある職員が見守る中、利用者はパート作業員等の仕事を見て覚え、まねをしながら自分のやりやすい方法で作業を身につけていく。職員が手順書をつくって細かく指導するより、このほうが習得しやすいのだという。

「普通に就職しても、パート職員と働くという状況があるわけですから、社会にありがちな状況をつくってあげています。なかには僕らにはまねができないほどのスピードで作業をする人や、ものすごく正確に仕事をする人もいて、驚かされますね」

収益の多くは国からの給付金と企業から請け負う事業の売り上げで、同会の場合、仕事を丸ごと通常

単価で受注するため利用者の工賃は全国平均の約2倍と高額なのが特徴だ。工賃は現金で手渡し、コロナ以前は食事会を開いたり、積立金で旅行イベント等も行い、モチベーションを持って楽しく仕事ができる土壌を生み出している。

こうして利用者の人たちは、さまざまな人と関わりながら就労訓練を行い、仕事の楽しさややりがいを身につけながら社会参加を実現している。さらに、就労移行支援事業においても毎年一般企業に就職していく人が一定数おり、実績を積み重ねている。



すだち亀ヶ谷作業所



作業所内の作業の様子(左右)

今では同会の評判を聞きつけ、遠方から電車やバスを使って通う利用者も多いのだという。

➔ 働く場所をつくり、人を育てる

「私たちの役割は人を育てること。そのためには働く場所が必要です。環境さえ整備してあげれば利用者の方々は自然と育ちます。僕らは黒衣^{くろご}なのです。だから就労の場や生活の場を整え、生涯にわたって地域で生きていけるための支援システムをそろえてあげる。それが当会の最終的な目標です」

令和元(2019)年、三芳作業所を新たに建設し、リ

ネンサプライ事業を手がける大手企業との協業でクリーニング事業を開始。ここでは大手ビジネスホテルやスポーツクラブ、スーパー銭湯や理髪店等のタオル類のクリーニング作業を1日数万枚も手がけており、ゆうき福祉会の大きな収益となっている。

また、「所沢市こどもと福祉の未来館」1階にある同会が運営するベーカリー&カフェの店「temicafe テミカフェ」では、1日500個、種類豊富で安くおいしいパンを焼き上げ、昼には売り切れるという人気ぶりだ。さらに、ビニールハウスをつくり水耕栽培から始めた農業



は、その後遊休農地を借り農業従事者の指導のもと露地栽培も開始。今では8,000坪の畑でニンジンやトウモロコシ、オクラなど、さまざまな野菜を栽培している。最近では、近隣の学童クラブや保育園の子どもたちと収穫体験も行い、地域との親睦も深めているという。

さらに関連法人で群馬県にあるキャンプ場を購入して運営を開始。よりいっそう利用者が活躍できる場を広げるとともに、災害時の緊急避難先、BCP(事業継続計画)対策での利用も視野に入れている。

「投資をして採算がとれる事業にし、経済活動として立ち行くようにするという考えがあるので、必要な設備投資は進めています。それによって生産力が向上し、

利用者の方々が手がける製品の質も良くなる。彼らが働く姿を見て、多くの人がその製品を当たり前のようにになれば、本質的な差別はなくなるだろうと思っていて、そのための場所を用意しているつもりです」

➔ 職員が自律的に学び成長する仕組みをつくる

ゆうき福祉会は昨年春より、製本・印刷会社との協業プロジェクトで福祉施設の職員向けにオンラインで配信する動画の制作に協力している。例えば、新人職員には障がいがある人の特性に関するものや支援のメソッド、福祉の法律にまつわるものなど、中堅職員には施設の運営や経営に関するものなど。キャリアステージごとテーマ別に、忙しい仕事の合間に10分程度で視聴できる映像コンテンツを数多く制作。一般の福祉施設向けに提供される。もちろん、同会でも教育ツールの一つにする予定だ。

「外部の研修会に参加すると1日がかりになることが多く、忙しい中職員を出しづらいのです。ですから、このツールも活用し、自ら勉強して成長しようと言っています」

福祉系大学院に通い知識を深めたいと考える職員を応援するなど、職員のキャリアアップに向けても支援を行う。豊田理事長のいう「人を育てること」とは、そこで働く職員も育てていくということなのだ。

➔ より良い社会の実現に向けて、挑戦は続く

ゆうき福祉会は今年が中期経営計画の最終年となる。現在の計画はほぼ目標を達成し、今、新たな計画策定を進めている。

「今後は組織を維持、安定させることを主軸に、今問題になっている貧困層の人たちに、学習支援や子ども食堂などの支援も行っていく考えです」

同会は今後もさまざまな取り組みに挑戦しながら、誰一人孤立させることなく、すべての人が等しく生活できる社会の実現を目指していく。